



食べやすさにこだわった漆塗り介護スプーンの開発

～デザインチームによる機能美の追求～

漆器のアソベ × デザインチーム

産技研、京滋摂食嚥下を考える会とともに、嚥下（えんげ：食べ物を飲み込むこと）しやすさを追求した木製漆塗りのスプーンを開発。



介護食器にデザイン性を

Q. 開発に至るきっかけを教えてください。

きっかけは、京滋摂食・嚥下を考える会の荒金医師が弊社を訪ねて来られた事です。高齢者や障害者の方々のために、機能のみにとらわれない、もっと人間味のある、見た目に美しく優しい口あたりの木製スプーンや食器を漆塗りで製作してほしいとの依頼を頂きました。聞いてみると、介護食器は使いやすさを重視するあまり、無機質でデザイン性が無いものが多いとのこと。元々弊社は様々な漆器を扱っていましたが、福祉分野の商品はなかったため、この機会に介護食器に機能美を与える開発に携わろうと考えました。

開発プロジェクトの始動

Q. 産技研に相談された経緯を教えてください。

産技研では漆の研究や漆工に関する人材育成（若手担い手の育成）をされており、日頃からお付き合いがありました。漆研究と共に、デザインチームではプロダクトデザインの研究をしているメンバーがいることも知っていましたので、すぐに産技研に連絡して開発への参画を打診しました。まず始めに、弊社、京滋摂食嚥下を考える会、産技研で介護食器のコンセプト設計を検討。「感性価値」というコンセプトの下、開発に着手しました。

試作を繰り返し理想の形状へ

Q. 開発時の苦労はありましたか。

開発については、産技研の支援を全面的に受けました。はじめにデザインチームで模型を作成。京滋摂食嚥下を考える会とともに高齢者や要介護者の方に実際に使用していただき、その都度改善点をフィードバック。産技研の3Dスキャナーや3Dプ

リントを用いて何度も試作を繰り返してもらいました。特に、嚥下障害を防止するためにあえて「掬えすぎない大きさ」とすることで、手指の障害による様々な持ち方にも対応できる設計とすることにこだわりました。試行錯誤の末、1年以上の年月をかけ、ようやく理想の形となりました。

誰もがより使いやすく、美味しく、楽しく食べられるために

Q. 今後の展開は

今回開発できた漆塗り介護スプーンは、「掬いやすさ」という機能とともに、「京都の漆塗り」という付加価値と高級感を演出しており、「嚥下機能の衰えた人への食欲の増進、食事の楽しみや満足感の向上に繋がった」とユーザーから多くの声をいただいています。



医師、作業療法士、産技研の皆さんと試行錯誤しながら、最上の物ができたと自負しております。特に産技研の全面支援がなければ今回の商品開発はあり得ませんでした。クラウドファンディングによる販売の支援もいただき、おかげさまでたくさんの方にお使いいただくことができました。今後、さらに多くの方にお使い頂き、心豊かな食生活を送っていただけたらと思っています。

担当チームから一言

漆は、その塗り肌の美しさと伝統に裏付けられた価値が「食べる楽しみをつくる」という感性的な効果にも働きかけます。食べやすい機能と、食べたくなる美しさの両立。伝統工芸は、福祉という新分野で輝く力があります。引き続き、漆芸や他の工芸分野でもその力を発揮できる支援をしていきます。

漆器のアソベ（遊部工芸株式会社）

所在地 京都市下京区東洞院四条下ル
電話 075-344-5333
URL <https://asobe.co.jp/company/index.html>
事業内容 漆器の製造・販売・修理

